

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

|  |     |
|--|-----|
| 平成 20 年度農業農村工学会大会講演会の開催について     | 94  |
| 平成 20 年度農業農村工学会大会講演会企画セッション「オープンタイプ」の発表者を募集します   | 96  |
| 農業農村工学会選書 17「機能保全における性能設計入門」発行のお知らせ  | 96  |
| 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!  | 96  |
| 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い  | 97  |
| 「農業農村工学会学術基金」の募金について   | 97  |
| 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について   | 98  |
| 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）のお知らせ   | 98  |
| 農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！   | 99  |
| 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 21 秋期～冬季の表紙写真の募集  | 100 |
| 平成 20 年度資源循環研究部会研究発表会の発表申込について  | 101 |
| 日本農業工学会平成 20 年度（第 24 回）シンポジウムの開催について   | 102 |
| <b>学会記事</b>  | 103 |

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、農業土木技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日                            | 主催       | 行事名   | テーマ                                    | 開催場所 | 掲載号                     |
|--------------------------------|----------|---|--|------|-------------------------|
| 平成 20 年 8 月<br>26～28 日         | 大会運営委員会  | 平成 20 年度農業農村工学会大会講演会    |  | 秋田市  | 75 巻 12 号<br>76 巻 1 3 号 |
| 平成 20 年 9 月 24 日<br>～26 日のうち一日 | 資源循環研究部会 | 平成 20 年度資源循環研究部会研究発表会  | 農村における水やバイオマス等資源の利活用および循環に係る調査・研究の最新成果 | 東京都  | 76 巻 3 号                |

### 第 76 巻 4 号予定

**展望：**農業農村工学の行方：小前 隆美

**小特集：**名称変更を記念するシンポジウム「農業農村工学会に期待する」

会長挨拶：青山 成康

[ 基調講演 ] 農業農村工学会に期待する：林 良博

[ 基調講演 ] 農業農村工学会への期待：中條 康朗

パネルディスカッション：三野 徹他

学会名称変更に伴う懸賞論文の審査経過、選考結果、および選考理由について：赤江 剛夫

懸賞論文・最優秀賞「農業農村工学会へのエール」：佐々木健他

懸賞論文・佳作「農業農村工学会への期待」：渡部 恵司

### 技術リポート

北海道支部：セルリーに対する灌水方法の改善に向けた取組み：堀 一嘉他

東北支部：鳴谷地地区における急傾斜地での圃場整備事例：矢矧 涉他

関東支部：畑地での反転均平工法について：細谷 和弘

京都支部：大口径パイプの設計・施工上の安全性に関する現場実証試験：志村 和信他

中国四国支部：ダムの水質悪化を防止する曝気装置の経済的運転方法：京田 伸幸他

九州支部：大分県農林水産部における設計 VE の取組みについて：小林 康二他

**小講座：**ロバスト最適化：宇波 耕一

**私のビジョン：**豊かな自然と食料を次世代へ 資源の有効利用を目指した農業農村工学技術について：中矢 哲郎

## 平成20年度農業農村工学会大会講演会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成20年度農業農村工学会大会講演会は、平成20年8月26日(火)、27日(水)、28日(木)の3日間、秋田市の秋田県立大学秋田キャンパスで開催されます。また、29日(金)には、現地研修会を実施する予定です。

本報では開催要領、参加申込などについてお知らせします。講演会での講演申込については、本誌2008年1月号会告を、会場設備やポスター発表詳細等については続報(6月号)をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

## ご注意いただきたい点

平成20年6月30日(月)までに参加申込をいただき、7月31日(木)までに参加費の入金が確認された場合に限り、参加費の割引があります。

6月30日(月)までに予約参加申込をいただいた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。印刷製本版の講演要旨集は、6月30日(月)までの申込数だけしか作成しません。締切日以降の予約はできません。

プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の概要(200字)などを集録した大会概要集は、大会当日、受付にて参加申込者全員にお渡しします。

参加申込は、ホームページまたはFAXで受け付けます。農業農村工学会のホームページをご参照のうえ、ご利用下さい。

## 1. 開催要領

(1) 開会式：8月26日(火)9:30~12:00

会場：秋田県立大学秋田キャンパス講堂  
秋田市下新城中野字街道端西241-438  
受付開始：8:45

(2) 交流会：8月26日(火)18:30~20:30

会場：秋田ビューホテル4F「飛翔」の間  
秋田市中通2-6-1

(3) 講演会：8月26日(火)、27日(水)、28日(木)

会場：秋田県立大学秋田キャンパス  
秋田市下新城中野字街道端西241-438

詳細は、プログラムとともに6月号に掲載する予定です。

(4) 現地研修会：8月29日(金)

Aコース：秋田の穀倉地帯仙北・平鹿平野の農業・自然・文化、農村ふるさと探訪コース

秋田の穀倉地帯仙北・平鹿平野の農業農村整備における地域の課題と工夫を紹介します。絶滅危惧種「トミヨ属雄物型」などの生息環境に配慮した農業農村整備事業の現地へご案内し、地域一体となって管理・保全してきた豊かな水資源と地域文化など、秋田の風土や文化、農業農村の歴史を紹介します。

【8:20 JR秋田駅(東口)集合 8:30 出発 14:30 頃 JR角館駅着 15:30 頃秋田空港着 16:30 頃 JR秋田駅着】

・国営かんがい排水事業 平鹿平野地区(横手市)

・県営ほ場整備事業 駒場北地区(大仙市)

平成17年度上野賞

・農村の環境と文化

まんが美術館(横手市)、角館武家屋敷(仙北市)

・日本の水理学のバイオニア 物部長穂博士記念館(大仙市)

Bコース：八郎湖と八郎潟干拓地の農業・農村基盤研修コース

20世紀最大の国家プロジェクト、農業土木技術の粋をつくりて誕生した八郎潟干拓地。食糧生産基地・モデル農村の約半世紀の歴史とともに、現在の流域・環境・農業の現状と課題、地域協働の取組を紹介します。

【8:20 JR秋田駅(東口)集合 8:30 出発 15:30 頃秋田空港着 16:30 頃 JR秋田駅着】

・寒風山山頂展望台(男鹿市)

・男鹿真山伝承館・なまはげ館(男鹿市)

・大潟村干拓博物館(大潟村)

・国営農地防災事業 男鹿東部地区(防潮水門、南部排水機場)

・八郎湖、干拓地基幹施設と干拓農地(大潟村)

\*経路は変更になる場合があります。また、申込が少ないときは中止する場合があります(最少催行人員：それぞれ約20名)。

(5) 八郎潟干拓地施設めぐり：8月27日(水)、28日(木)

(午前・午後各1回の計4回、参加費無料、当日先着順、1回80名までを予定)

【午前便9:10 講演会場(秋田県立大学秋田キャンパス)入口集合 9:30 出発 12:30 頃講演会場着、午後便13:10 講演会場入口集合 13:30 出発 16:30 頃講演会場着】

・寒風山山頂、八郎潟干拓地基幹施設(南部排水機場他)、大潟村干拓博物館

## 2. 参加費用

(1) 参加費用と内容：次の表をご覧ください。

|              | 予約申込              |        | 当日申込              |        |
|--------------|-------------------|--------|-------------------|--------|
|              | 希望者のみ             | なし     | なし                | なし     |
| CD-ROM版講演要旨集 | 希望者のみ             | なし     | 希望者のみ             | なし     |
| 大会概要集        | 希望者のみ             | なし     | 希望者のみ             | なし     |
| 申込締切日        | 6月30日(以降は受け付けません) | なし     | 6月30日(以降は受け付けません) | 大会当日   |
| 支払締切日        | 7月31日             | なし     | 7月31日             | 大会当日   |
| 印刷製本版講演概要集   | 希望者のみ             | なし     | 希望者のみ             | なし     |
| 会員種別         | 一般                | 学生     | 一般                | 学生     |
| 参加費          | ¥10,000           | ¥8,000 | ¥5,000            | ¥3,000 |
|              | ¥7,000            | ¥5,000 | なし                | なし     |

(2) 交流会 一般 6,000円 学生 3,000円

(3) 現地研修会 5,000円(昼食代1,000円を含む) 事前予約制とします。申込締切は6月30日(月)。

### 3. 申込方法

参加申込は、ホームページまたはFAXにて受け付けます。業務簡素化のため、ホームページからのお申込にご協力下さい。なお、電話でのお申込・お問合せはご遠慮下さい。参加申込後に変更、取消が生じた場合は、参加申込書(FAX用)の連絡事項欄に「変更」または「取消」と大書し、修正事項を明記してFAXにて速やかにお知らせ下さい。

(1) ホームページによるお申込

農業農村工学会のホームページからお入り下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/akita-taikai/>

(2) FAXによるお申込

下記宛にお申し込み下さい。

トップツアー(株)秋田支店 気付 農業農村工学会大会受付係

FAX 018 866 0177

### 4. 支払方法

クレジットカードによるお支払に対応いたします。

お振込の方は、7月31日(木)までに下記の指定銀行口座へお振り込み下さい。この場合、振込手数料は振込人の負担となります。

口座：秋田銀行 駅前支店 普通口座

口座番号 501530

トップツアー(株)秋田支店

6月30日(月)までに参加申込され7月31日(木)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込扱いの参加費を申し受けます。

会社経費・公費等によるお支払にも対応いたします。

原則として参加費等の払戻はいたしません。

### 5. 講演要旨集の事前送付について

6月30日(月)までに参加申込をされた方全員に、CD-ROM版講演要旨集を、大会の約2週間前までにお届けします。

印刷製本版の講演要旨集を申し込まれた方には、大会当日、受付にてお渡しします。ただし、参加申込をされ、7月31日(木)までにご入金がなかった場合には、大会当日の受付にて当日申込扱いの参加費と印刷製本版講演要旨集の差額の合計(一般12,000円、学生10,000円)を申し受けます。また、事前に送付を希望される方は、参加申込の際にその旨、ご明記下さい。1部につき500円の送料をいただいたうえで、大会の約2週間前までにお届けします。

### 6. 昼食

大学食堂は席数に限りがあり混雑が予想されますので、弁当の予約を受け付けます。

弁当は、日替わりの地産食材によるもので1食700円(お茶付、

水土の知 76(3)

消費税込)です。

参加申込用紙に必要事項を記入しお申し込み下さい。

### 7. 託児室の利用について

本大会では専門のベビーシッターによる託児室を設置いたします。利用は無料です。利用を希望する方は、参加申込用紙に必要事項を記入しお申し込み下さい。

### 8. 宿泊等の斡旋

本大会の参加申込受付業務を委託しているトップツアー(株)秋田支店が、宿泊手配のお手伝いをしています。宿泊に関するご案内は、すべてホームページ上で行います。また、コンピュータによる自動在庫管理を行いますので、ホームページからの申込に限らせていただきます。学会ホームページのリンクをご覧ください。

### 9. 会場までの交通案内

(1) 開会式・講演会：秋田県立大学秋田キャンパス

大会専用バス：JR秋田駅より秋田市内経由で約30分、往復便です。

講演会の開始、終了時間に合わせ、大型バス10台で運行する予定としております。

また、講演時間内は、JR秋田駅から講演会場間を1時間に1便程度のシャトルバスを予定しております

JR奥羽本線：追分駅より徒歩で約20分(秋田駅より追分駅まで約15分、230円)

タクシー：JR秋田駅より約25分

自家用車の駐車場：大学の駐車場を利用できます。

大会専用バス(農業農村工学会大会専用バス)は、期間内パス券(1,000円)を事前申込時に申し受け、CD-ROM版講演要旨集と同封でお届けします。必ずご持参下さい。乗車時に係員に提示頂きます。

(2) 交流会：秋田ビューホテル4F「飛翔」の間

秋田市中通2-6-1

JR秋田駅より徒歩3分

当日は、大学から会場までの専用バスを準備します。

### 10. 問合せ先

(1) 参加申込・宿泊等に関するお問合せ

トップツアー(株)秋田支店

農業農村工学会大会受付係 担当：照井仁一

〒010 0951 秋田市山王2-1-4

☎018 866 0109 FAX 018 866 0177

E-mail : jinichi\_terui@toptour.co.jp

(2) 大会全般に関するお問合せ

平成20年度農業農村工学会大会運営委員会事務局

〒010 0444 秋田県南秋田郡大湯村字南2-2

秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科

近藤 正・永吉武志

☎0185 45 3918(近藤直通), 0185 45 3915(永吉直通)

FAX 0185 45 2377

E-mail : t\_kondo@akita-pu.ac.jp

秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科教授

E-mail : tsato@akita-pu.ac.jp

**11. 運営委員会**

委員長 佐藤照男

### 平成 20 年度農業農村工学会大会講演会 企画セッション「オープンタイプ」の発表者を募集します

平成 20 年度農業農村工学会大会講演会（平成 20 年 8 月 26～28 日）では、例年のように「企画セッション」を開催します。ついては、次の 2 つの企画セッション（オープンタイプ）の発表者を募集いたします。

1. 企画テーマ：「東北地方の農業土木分野における VE の現状と  
活性化策の研究」

オーガナイザー：水土里ネット秋田・KV ネット東京

加澤隆昌・小泉泰通

申込・問合せ先：☎03 3899 5143 FAX 03 3899 5143

E-mail : y-koizumi@wine.ocn.ne.jp

2. 企画テーマ：「農業農村の施設管理における情報技術の利用と  
今後の展望」

オーガナイザー：農業農村情報研究部会 大政謙次

申込・問合せ先：☎03 5841 5340 FAX 03 5841 8175

E-mail : aomasa@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

これらの企画セッションで発表を行いたい方は、3月21日（金）までに各オーガナイザーにコンタクトして下さい。なお企画によっては締切を早める場合もあります。

それぞれの企画の開催主旨は学会の HP に掲載しておりますのでご覧下さい。

### 農業農村工学会選書 17「機能保全における性能設計入門」発行のお知らせ

この度、農業農村工学会選書 17「機能保全における性能設計入門」が発行されることになりましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

**書籍名**...農業農村工学会選書 17「機能保全における性能設計入門」

**価格**...定 価 4,500 円（消費税内税，送料学会負担）

会員特価 2,600 円（消費税内税，送料学会負担）

**規格**...A5 判 約 208 ページ

**申込方法**

・役所等で、公用として購入される場合

ファックスかメールでお申し込み下さい。様式は問いません。

ご希望冊数，送付先住所，請求書の宛名をご記入下さい。

・個人，会社で購入される場合

現金書留：書籍代金と，書籍名，冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替(00160 8 47993)：振替用紙の通信欄に書籍名，冊数をご記入下さい。

**申込先**

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社)農業農村工学会事務局 河合あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail : maki@jsidre.or.jp

### 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

#### 行事企画委員会

#### 農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 CPD，また，通信教育で最大年間 18 CPD 取得できますので，是非，通信教育にご参加下さい。

**1. 参加会員の募集**

参加をご希望の学会会員で，かつ CPD 機構会員の方は，農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E-mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03 5777 2099) でお送り下さい。

なお，この機会に農業農村工学会，継続教育機構への入会を希望される方は，同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>，<http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので，ご記入の上お申し込み下さい。

**2. 申込期限**

参加は，いつからでも可能です。

**3. 事務局**

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当

します。( ☎03 5777 2098 )

#### 4. 内 容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得で

き、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

#### 5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

## 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

### 災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下

のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

## 「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成18年度までに43件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058 口座名(社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

## 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2008年3月末には Vol 6, No. 1 が発刊される予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象

環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
  - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は, 学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2008年3月末には Vol 6, No. 1 が発刊される予定です。

わが国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG

International Society of Paddy and Water Environment Engi-

neering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針:** 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

**編集体制** 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31 )

• Editor in Chief : Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Former Professor, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG  
 Department of Environmental Science, Konkuk University,  
 Seoul, Korea  
 Dr. Yutaka MATSUNO  
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan  
 Dr. Masaru MIZOGUCHI  
 Department of Global Agricultural Science, University of  
 Tokyo, Tokyo, Japan  
 Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)  
 Kyoto, Japan  
 Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG  
 Department of Bioenvironmental System Engineering, Na-  
 tional, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China  
 出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)  
 投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。  
 投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

**農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！**  
**学会誌編集委員会**

**自主投稿原稿の募集**

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ

に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

**学会誌 76 巻の小特集のテーマ**

| 小 特 集 テ ー マ                        | 要 旨 締 切<br>( A4判<br>1 500 字以内 ) | 原 稿 締 切<br>( 刷り上り<br>4 ページ厳守 ) |
|------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| 76 巻 3 号 基幹水利施設のストックマネジメント         | 公募終了                            |                                |
| 4 号 学会名称変更関連                       | 公募なし                            |                                |
| 5 号 第 1 回アジア・太平洋水サミット関連            | 公募なし                            |                                |
| 6 号 大会関連                           | 公募なし                            |                                |
| 7 号 耕作放棄地の解消と再発防止 ( 仮 )            | 公募終了                            |                                |
| 8 号 農業農村整備事業における環境配慮の取組み事例 ( 仮 )   | 公募終了                            | 平成 20 年 4 月 14 日               |
| 9 号 電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用 ( 仮 )     | 平成 20 年 3 月 25 日                | 平成 20 年 5 月 15 日               |
| 10 号 北海道における水田の再編整備と農業生産の組織化 ( 仮 ) | 公募なし                            |                                |
| 11 号 地球温暖化防止と農業農村工学技術 ( 仮 )        | 平成 20 年 4 月 25 日                | 平成 20 年 6 月 13 日               |
| 12 号 限界集落の現状と課題 ( 仮 )              | 平成 20 年 5 月 23 日                | 平成 20 年 7 月 15 日               |
| 77 巻 1 号 農業農村整備技術の継承と技術者育成 ( 仮 )   | 平成 20 年 6 月 25 日                | 平成 20 年 8 月 15 日               |
| 2 号 農業農村整備事業の効果・効用 ( 仮 )           | 平成 20 年 7 月 25 日                | 平成 20 年 9 月 12 日               |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 ( 社 ) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて  
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail : [henshu@jsidre.or.jp](mailto:henshu@jsidre.or.jp)

**「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！**

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ ( 1 800 字程度 ) で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れて下さい。

**私の薦める本**は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内 ( 1 200 字 ) で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

## 76巻9号テーマ「電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用」(仮)

近年の情報技術等の進歩により、電磁波を用いた計測技術が飛躍的な革新と普及を遂げ、あらゆる分野への応用が行われています。

農業農村工学分野においても、電磁波レーダ法はコンクリート、埋設管路等の構造物非破壊診断技術として活用されており、また地中レーダ等の電磁波を用いた地盤計測方法は地中埋設物検知から地質構造調査、土壌水分動態把握まで幅広く活用されています。

一方、昨年秋に一般的な利用が開始された陸域観測技術衛星「だいち (ALOS, Advanced Land Observing Satellite)」に搭載された合成開口レーダは、農村地域の災害監視や作物生育状況監視等への活用が期待されています。

本特集号では、このような電磁波を用いた調査計測技術の農業および農業農村工学分野における応用について、適用事例、技術動向、展望等に関する報文を募集いたします。

## 76巻11号テーマ「地球温暖化防止と農業農村工学技術」(仮)

2007年、ゴア前米国副大統領とともにノーベル平和賞を受賞した「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」の報告書によれば、気候システムに温暖化が起こっており、その原因は、人為起源の温室効果ガスの増加であるとほぼ断定されています。地球温暖化は加速的に進行しており、農林水産業にも深刻な影響を及ぼすと予測されています。

このような地球温暖化問題に対処するため、京都議定書において、2008年から2012年までの第1約束期間に各国が取り組むべき温室効果ガス排出削減目標が定められ、わが国は、6%の削減が義務付けられました。また、農林水産省では、2007年7月、地球環境保全に積極的に貢献する農林水産業の実現に向けた推進方向を示した「農林水産省地球温暖化対策総合戦略」や「バイオマス・

ニッポン総合戦略」など、地球温暖化防止に向けた取組みが進められているところです。さらに、生物多様性の保全を推進するため「農林水産省生物多様性戦略」が策定されましたが、この中でも地球の温暖化は生物の多様性に与える重要な影響因子として認識されています。

農業農村整備事業においても、地域の生態系に配慮した取組みが展開されておりますが、本小特集では、二酸化炭素削減など地球温暖化防止策に焦点を当て、農業農村工学においてどのような地球温暖化防止に資する取組みが可能か、その具体的事例や技術動向、バイオマスの活用事例、生物多様性の保全などに関する報文を幅広く募集いたします。

### 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

#### 「水土の知 (農業農村工学会誌)」平成21年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成21年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

#### 趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが国家規模のプロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域にも、規模の違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「秋

から冬」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

#### 記

#### 1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」  
(昨年と同様)

#### 2. 対象巻号

学会誌第77巻(平成21年1～12月号)のうち、特に秋季～冬季のもの

#### 3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEGファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 5. 締切 平成20年3月30日(秋季～冬季の写真)

#### 6. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水

利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

## 平成 20 年度 資源循環研究部会研究発表会の発表申込について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



資源循環研究部会では、農村における水循環やバイオマスの利活用に係る技術の発展およびこれら技術に関心を有する者の学術交流を目的として、研究発表会を開催します。

つきましては、農業農村工学会会員および資源循環研究部会員の皆様方から広く発表者を募りますので、積極的なご応募・ご参加をお待ちしています。

なお、発表会の聴講申込につきましては、詳細が明らかになり次第お知らせします。

1. 開催日 平成 20 年 9 月 24 日(水)～26 日(金)のうち一日  
10:00～16:00(予定)

バイオマス総合展 2008 の併催セミナーとして開催  
予定

2. 会場 東京ビッグサイト

3. 内容 農村における水やバイオマス等資源の利活用および  
循環に係る調査・研究の最新成果

### 4. 発表要領

#### (1) 発表者の資格

農業農村工学会資源循環研究部会会員とします。(申込と併せての入会も可能です。)

#### (2) 発表の内容

農村における水やバイオマス等有機資源の利活用および循環に係る調査・研究の成果(農業集落排水技術、バイオマス利活用、水資源再利用、汚泥再資源化技術等)

#### (3) 発表方法

個人発表とし、1人(共同研究の場合は口頭発表者)1課題とします。

発表を補助する映像機器として、パソコンおよびプロジェクターを用意します。

#### (4) 発表時間

20分程度/人(発表17分、質疑応答3分程度)の予定です。

#### (5) 論文集

論文集を作成し配布します。

#### (6) その他

優秀な論文については、部会長賞を与え、発表会場で表彰することを予定しております。

### 5. 申し込み方法

#### (1) 発表申込

申込用紙の提出をもって申込とみなします。

申込用紙は研究部会 HP よりダウンロードして下さい。

原則として電子メールにて受け付けます。受理次第、当方から確認のメールを送信させていただきます。

締切りは平成 20 年 4 月 25 日(金)とします。

なるべく多くの方に発表してもらおう考えではありますが、応募総数、内容によってお断りする場合があります。応募者へは 5 月末に通知する予定です。

#### (2) 投稿

発表が決定した応募者には、論文を作成していただきます。論文集原稿作成要領を研究部会 HP に掲載しております。

投稿締切りは平成 20 年 7 月 10 日(木)とします。

論文は、査読委員会にて査読を行い、場合によっては加筆修正をお願いする場合があります。

#### (3) 申込・問合せ先

農業農村工学会 資源循環研究部会

事務局:(社)地域資源循環技術センター企画情報室

企画情報班(担当:関島)

〒105 0012 東京都港区芝大門一丁目1番3号

日本赤十字社ビル

☎03 3432 6282 FAX 03 3432 0743

E-mail: [sigen@jarus.or.jp](mailto:sigen@jarus.or.jp)

研究部会 HP: <http://www.jarus.or.jp/menu/bukai.htm>

## 日本農業工学会平成20年度(第24回)シンポジウムの開催について テーマ『農業工学分野における地理空間情報の利用』

近年の地理情報システム(GIS)やリモートセンシングなどの地理空間情報の利用にはめざましいものがあります。昨年5月には、GISと衛星測位を一体的に推進することを目的とした地理空間情報活用推進基本法が成立し、農業工学の分野においても、災害に強く魅力ある農業・農村づくりや攻めの農業へ転換、水利ストックの有効活用・施設管理、精密農業、生態系・環境管理などへの利用が期待されています。本シンポジウムでは、この分野で活躍している先生方に話題提供を頂き、農業工学分野の地理空間情報利用の現状と今後のあり方について考えます。

ぜひご参加下さい。

1. 主催 日本農業工学会
2. 日時 平成20年5月9日(金)13:00~17:00
3. 場所 農業土木会館 6階大会議室
4. 参加費 1,000円(資料代を含む)当日受付でお支払い下さい。

### 5. プログラム

13:00~13:05

会長挨拶:真木太一 日本農業工学会会長(琉球大学農学部)

13:05~13:10

開会の辞・趣旨説明:大政謙次

(東京大学大学院農学生命科学研究科)

13:10~13:15

「リモートセンシングを基軸とした農地空間の情報化とその利用」

野口 伸(北海道大学大学院農学研究院)

13:50~14:30

「空間情報を活用した低コスト草地整備法」

海津 裕(北海道大学大学院農学研究院)

14:40~15:20

「GISを活用した不定流広域流出モデルによるため池群の洪水軽減効果の評価」

吉迫 宏((独)農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所)

15:20~16:00

「湿原・河川敷における生物多様性保全のための空間情報解析」

清水 庸(東京大学大学院農学生命科学研究科)

16:00~16:40 総合討論

コーディネータ 大政謙次(東京大学大学院農学生命科学研究科), 町田武美(茨城大学農学部)

### 6. 申込方法

様式はございませんので、氏名、所属を明記のうえ FAX または E-mail 下記までお送り下さい。

### 7. 申込・問合せ先

日本農業工学会事務局

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail: tkiku@jsidre.or.jp

### 地域環境工学シリーズ 4

## 清らかな水のためのサイエンス

### —水質環境学—

(社)農業農村工学会発行

A5判, 9P, 一段組, 約220ページ

編集委員会(五十音順, 所属は執筆時)

委員長 田淵 俊雄 (日本学術会議会員)  
委員 安楽 敏 (農林水産省構造改善局建設部設計課)  
" 中曽根英雄 (茨城大学農学部)  
" 柚山 義人 (農業工学研究所農村整備部)

まえがき

- I. 清らかな水のための序章
  - II. 水質環境の現状
  - III. 水質の変動現象
  - IV. 水質調査および水質分析
  - V. 集水域の水質環境—栄養塩類の挙動—
  - VI. 水質環境の解析とモデル
  - VII. 生態系モデルによる水質環境解析
  - VIII. 広域水質環境をめぐる課題
- 巻末資料  
さくいん

定 価 3,200円 (内税・送料学会負担)  
会員特価 2,800円 (内税・送料学会負担)  
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます。〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4  
(社)農業農村工学会  
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494